

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態 (講義・演習・実験等) の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導 (院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導 (専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価 (評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 実践的な志向を持つ学生に対応した授業形態を検討する。	→ 「教育学研究科の教育課程および授業形態を継続的に検討する委員会の有無と検討の進捗状況」 「履修者数規模別の授業科目数」 「少人数授業の授業形態の調査」 「規模別講義室・演習室の使用状況」 「マルチメディア教室の稼働率」	B	B			
2. シラバスと授業内容との整合性について、継続的に検証する。	→ 「学生による授業評価の実施率」 「学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率」	A	A			
3. 教育学研究科における成績評価のあり方について、問題点の抽出と改善の方策を継続的に検討する。	→ 「教育学研究科の教育課程を継続的に検討する委員会の有無と開催頻度」 「各授業科目の成績分布」	C	C			
4. 修士論文・博士論文の指導体制について、実施結果の検証を行う。	→ 「学生へのアンケート調査」	C	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 2010年度の教育学研究科の在籍者数は、博士課程前期課程6名、後期課程3名、研究員4の計13名であった。そのため、すべての授業が少人数で行われている。マルチメディア教室は、前期課程の学生を中心に有効に利用されている。研究科開設後2年が経過したが、課程修了者がわずかなため、学生の志向がどのような傾向にあるのかを捉えて学習指導の適切性について検証するところまでには至っていない。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) シラバスは学生がウェブ上で閲覧できるようにしている。学生による授業評価を実施し (実施率100%)、授業担当教員が個別にシラバスと授業内容の整合性および、授業内容の適切性について自己評価を行っている。

★ 小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 修士論文については、幼児教育学領域と臨床教育学領域が、各々領域別に評価を行っているが、教育学研究科全体で成績評価および単位認定の適切性について検討し、検証するところまでには至っていない。博士論文については、領域を超え、研究科全体で評価する体制があり、それに従って評価は適切に行われている。
	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 学生対象のアンケート調査結果を基に、科目担当者が個別に授業内容および方法の改善を図っている。特に修士論文・博士論文の指導については、担当教員による自己評価と、課題設定が行われている。しかし、これらを基に、組織的に体系的な教育内容や方法を検証する体制づくりまでには至っていない。
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注) 出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	教育方法および学習指導の検証のための学生の授業へのニーズ把握
小項目6.3.2	シラバスと授業内容の整合性に関する教員の自己評価
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注) 出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	学生へのアンケート調査結果を基に、研究科全体の学生のニーズを整理、把握し、研究科委員会で、研究科全体の教育方法および学習指導の改善に活かす。
小項目6.3.2	学生の授業評価を基にした、シラバスと授業内容の整合性に関する教員の自己評価を、研究科全体の課題改善に活かす。
★ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	マルチメディア室の利用法
小項目6.3.2	学生の授業評価結果の有効利用。ホームページ上の授業内容紹介の整備
★小項目6.3.3	研究科全体としての成績評価方法の検証
小項目6.3.4	教育内容・方法の改善のための組織的研修会の実施
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	マルチメディア室の利用頻度や利用に関する学生の要望について把握するため、教学補佐に利用状況の実態記録を依頼し、その資料を基に研究科委員会で改善法について検討して、学生のニーズに合う環境を整備し、学生の主体的学習を促す。
小項目6.3.2	シラバスと授業内容の整合性について継続的に検証するために、学生の授業評価結果を基に、各授業科目担当教員が行った改善策を共有できるよう研究委員会で懇談の時をもち、研究科全体の検証に活かす。
★小項目6.3.3	研究科委員会で、各授業科目の成績分布を基に、成績評価方法の検証を行い、成績評価方法の改善に活かす。
小項目6.3.4	FDの一環として、年に1度、修士論文・博士論文の指導方法について研究科委員会メンバー全員が情報や課題を共有、検討する機会を設け、現行指導方法や体制の改善に活かす。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○的確な現状把握がなされているので、今後は「改善方策」の実施が望まれます。

【学内委員】

○適切に改善が進んでいることが示されており、評価できます。具体的に昨年度の自己点検評価の結果がどのように生かされたのか言及することが期待されます。

○教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつける事に関し、個人のレベルを出ていません。そうであるならば改善されたかどうかのように保証するのでしょうか。

○小項目6.3.1については、要素や大学基準協会の留意すべき事項に従った記述が必要でしょう。

○課題も把握されています。それを組織的な活動・改善にすべきであり、大学基準協会もそれを求めています。伸ばさせるための方策や改善方策に示したことを、次年度必ず記述して、PDCAサイクルを機能させることが期待されます。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」

達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》6.3.1に下記のように追記。

★ 前期課程、後期課程とも、個々の学生に合わせた研究指導計画に基づいて、研究指導、学位論文作成指導を行っている。